

## PED 発生現場から

紫 野 正 治 (株シムコ)

All about SWINE 46, 20-21

### 1. 2014年3月26日 朝

2014年3月26日、私は館山事業所から本社への転勤が決まっていたため、その日が館山事業所で最後の勤務日となっていた。

その日の朝は、引越しを27日に控えて夜遅くまで荷造りに時間をとられたため、眠気に眼を擦りながら車に乗り込み、館山での3年間を感慨深く思い出しながら農場に向かった。

そして農場の事務所に入った時、所長から分娩舎で下痢が発生していて、恐らくPEDだろうということを聞かされた。そのことを聞いたときは分娩舎でよくある下痢だろうと思い、まさかそれが2013年秋から発生し、2014年養豚業界で猛威を振るうことになるPEDであるとは全く考えていなかった。詳細を聞くと、前日の夜に数腹で下痢が発生し、その日の早朝には分娩舎のほとんどの腹で母豚、仔豚とも下痢と嘔吐をしているとのことだった。「まさか・・・」、そこで眠気は一気に覚め、とにかく自分の目で確かめようと、急いで風呂に向かった。

### 2. 2014年3月26日 午前

風呂から出て、急いで下痢が出ているという分娩舎に向かい、豚舎に入ると普段鼻に入ってくる臭いとは全く違う臭いが立ち込めていた。そして各豚房を見ていくと、母豚は元気なく横臥し、下

痢をしているものや嘔吐しているものもいた。さらに仔豚を見るとほぼ全ての豚房の仔豚が黄色水様性の下痢を呈し、特に日齢の若い仔豚ほど酷い状態だった。症状を見れば見るほど、典型的なPED様症状であることがわかった。病性鑑定をするまでは何とも言えないが、これだけ豚舎内に広がっているのはただ事でないということは誰の目にも明らかだった。

### 3. 2014年3月26日 午後

家畜保健所の立ち入りが昼前からあり、症状の確認と採材が行なわれ、当日中に結果が知らされるとの事だった。今思い返してみるとその日は一日中、農場は異様な雰囲気包まれていた様に思う。しかし通常の作業も行わなければならないため、自分の持ち場での作業に戻ったが、うわの空で手につかなかった。PEDだった場合、これから農場や会社がどうなるのかを皆で話していたが、どんな話をしていても現実感がなかった。

その日の夕方7時頃、現場作業中に検査結果を聞かされた。結果はPED陽性だった。目の前が真っ暗になった気がしたのは、辺りが暗くなっていったせいではなかっただろう。

### 4. 2014年3月30日

翌27日からは引越しのため、複雑な思いのな

か館山を離れ、次に館山に入ったのは4日後の30日だった。30日朝、分娩舎へ入ると壮絶な状況が目に入ってきた。母豚の状態は26日とさほど変わらず、元気なく横臥し下痢をしている程度だったが、仔豚の状態が激変していた。24日～28日頃生まれの仔豚が殆ど見当たらず、母豚しか居ないという豚房が多数あり、仔豚は何処に行ったのかと豚舎内をよく見渡すと、隅の方に死んだ仔豚が入れられたバケツが幾つも置かれていた。殆どの仔豚が死んでいたのだった。

私が館山から離れている間、何とか仔豚を生かそうと補液をしたり、電解質を経口投与したりと色々試みていたが、PEDは想像以上の勢いがあり目立った成果は見られなかったようだった。

そして29日～30日生まれの仔豚は下痢と嘔吐による激しい脱水により、骨と皮だけのよう、まるで骨格標本を見ているような状態で、そんな状態でも中にはまだ生きていた仔豚もいたが、死亡する仔豚は増える一方であった。

また、26日の発生以降、PED拡散を防止するための各豚舎への入り方や事務所での交差汚染の防止措置をしていたにも関わらず、PEDの勢いは分娩舎のみに止まらず、種豚、離乳、育成舎にまで飛び火していた。

そして、分娩舎の状況が非常に重篤で、このままでは被害が拡大する一方であるとの判断から、仔豚を母豚の移行抗体で守るために、これから分娩をする母豚を対象にPEDワクチン接種と馴致を平行して行うことが決定された。馴致については、他の疾病を拡散させるリスクもあるため判断

が非常に難しいものであるが、PEDの被害を最小限に抑えることが最優先事項であることから行われる事となった。

馴致はその日の午後から行い、数日後の母豚の発症状況と、その後の仔豚死亡の減少を見ると、馴致は成功したといえるだろう。

## 5. その後

4月1日から本社勤務となってからも、館山へは定期的に状況確認のため訪れたが、馴致を行ってから2週以降、仔豚の死亡頭数は目に見えて減少していった。

しかし4月末にPED症状が終息するまでに、死亡頭数は1500頭を超えていた。

一般の養豚農家であればPEDとの戦いはここで終わりになるが、SPF豚の種豚会社であるシムコとしては、ここからが半年以上にわたる戦いのスタートとなった。

## 6. 最後に

今回は初めての投稿に当たり、何をテーマにしようかと頭を悩ませていたが、PEDの侵入を許したことは私だけでなく会社としても非常に不本意であるが、私にとって一生忘れられない経験となったPED発生現場での状況について、少しでも知ってもらえればとの思いから、このテーマを選ぶこととした。

また、次回があるならば、陰性化までの道のりについても書ければと思う。